建築工藝鑑。法隆寺大鏡。國寶帖。國華等の如き多様なる作品から成立つもの。それから和漢名畫選。南畫集。圓山四條畫鑑。浮世繪派畫集等の如き畫集類。及び雪舟山水畫卷。傳鳥羽僧正筆戯獸畫卷。華山蟲魚帖。歌舞伎草紙の如き、單獨なる作品を複製せるもの等、數へ來れば其數は甚だ多いのである。此外なほ家集ともいふべきものがある。之は個人の藏品を集めたもので、例へば玄庵鑑賞(村山家)。世外庵鑑賞(井上侯爵家)。長春閣鑑賞(川崎家)等の如きは即ちそれである。これ等の複製品の外、古來傳つて居る所の模寫類がある。これは實物が已に散亡して居て僅かに模寫のみの傳へられたものもあるが、これなどは今や殆んど實物と同樣に尊い材料である。繪卷物の類に於ては特にこの模本類の傳へられたものが多いから研究家に好都合である。

次に研究の第二の方面は記載方向よりする研究である。此方面に於ける上代の古い記錄は佛寺の關係あるものが多い。其中で殊に寺社の古い緣起及財產目錄の類が參考となる。例へば大安寺伽藍緣起並流記資財帳。法隆寺伽藍緣起流記資財帳。西大寺資財流記帳。東大寺獻物帳等の如きは即ちそれである。これ等は何れも或意味に於て古い美術品の目錄であるから、研究上現今からは大に參考とすべきものがある。此種類のものが隨分多量にある。德川時代の末に表れた寺社實物展閲目錄の如きも此種類の一種のものとして數ふべきである。又足利時代以後殊に德川期に至つては所謂名物器玩を記載した名物記類が表はれてゐるが、これ亦此種の目錄的のものとして參考に資すべきである。

次に佛敎美術に關係しては、阿娑縛抄。覺禪抄。圖像抄等は密敎美術の研究に最も必要なものである。また作者の傳記を研究するに參考すべきは、淺岡興禎著古畫備考。堀直格編扶桑名畫傳。狩野永納著本朝畫史。菊本嘉保著萬寶余抄。新井白石著畫工便覽。檜山義信著皇朝名畫拾彙。齋藤彦五郎著圖畫考。白井華陽著畫乘要錄。清宮秀堅著雲煙略傳。山東京傳編浮世繪類考。無昂老人著近世逸人畫史。古筆了仲著扶桑畫人傳。堀直格著大和繪顯文抄。黑川春村稿歷代大佛師譜。瓊浦畫工傳。西村兼文著畫人傳補遺等は何れも著名なるものである。次に作家傳

記よりも作物の目錄性質に近い記載として藤井貞幹著考古抄錄。同上考古日錄。黑川眞賴編考古畫譜。源元幹輯圖畫一覽等がある。此外參考とすべき書としては、黑川博士全集美術工藝部。帝國美術略史稿本。藤岡博士近世繪畫史。橫井博士日本繪畫史。國寶帳解說。高山博士日本美術史稿。平子尙著佛敎美術の如き、及國華を初めとし前述の複製品について擧げた諸美術書の解說若くは本文等も參考とすべきである。尙美術研究家の紀行及地理書類も參考となるべきものが少くない。例へば屋代弘覽著道の幸。得能良介著巡廻日記。黑川道祐選雍州府誌。林宗甫選和州舊蹟幽光を初めとし、多くの名所記類も、或點に於て參考すべきものである。尙又文晁畫談、近世名家書畫談、山中人饒舌等美術に關する談叢、評論類も甚だ多くあるが、これ等も亦研究上一瞥を拂はねばならぬ。(大正三、一〇、一一筆記)

礫川晩靄

水道橋以北爲礫川。橋之東、靄之西、
兩崖竹樹灌莽。日未落而晩靄已浮。
秋色從西、蒼然滿關中。觀於是景、方
可悟此句之妙、　(鹽谷宕陰)